





13  
1804

古今奇談秀句冊第四卷

六 吉野猩猩人間遊て歌舞を伴ふ話

好む人よんせむやと責し。花の山とさしけんと思せし。花  
んんとてを境と修も。花のさうやそすやハ花も眺望の忙しき  
邊をたれ。花邊をさしひかぬ。或ハ雲とや多かることとさし人の  
此面彼面れ花をんて。吾真なるいんせむやの人ハ非人。右ノ左  
ハ山水の吉野一うさす。山のふりり。同よご吉野こそ。可人  
の始末。まきす。遊る。花ハ林の代り。芳ひつらん。尾茸るりのこ  
よ。不卓。さう。異種を本宮ひま。さるもあらん。教中す。わハけ  
山中の狩。ハあ。ず。そ。奥の花ハ。一時。あ。ず。咲。ハ。ち。散。る。さ。く  
ら。と。口。号。あ。ら。ハ。近。ら。れ。花。え。な。る。む。り。の。林。兼。路。ハ。谷。う。り。山  
さ。よ。活。ひ。曲。り。登。り。て。今。の。金。れ。居。る。し。そ。同。谷。の。片。側。を



古今奇談秀句冊第四卷



のぼりくさくさしてわづらあらん南朝とまうて犖路漸く用け軌道  
日は平よたれも教誨よあはれ水は臨める勝地ハ交流西河よ年  
及し本源ハ巴ケ淵とや山より出て山を環する水の咽んで流る  
澄くれ音ハ耳と伝らめく川上の流流皆くよはれて遙く紀よ  
達と峯中よハ急流の流瀑布の無りものも教多し金乃山嶽の  
名ハ地王金峯の社ようとこそぞい流しう密巖成乾の地  
と標して石汝も揺ぶづらうと古くかろ侍よ柱の本立つて  
る速て峯がわたり乃を深くかろるを信乃あぬも西より来れ  
ハと田の波ゆるわたり成よ之の水もあすづらうその石もや  
いつらより迎くるよりそとまをせまわ山元よ音つて怪巖珍會  
出谷よかくろひ大首ふして馬尾あり勢ハ碎り踏づく髪被つと  
る向より斜る眼光さうめらハ是あん義經のさう持らうか仙と

あり。時ありて岸よ嘶啼とぞ。南の深きよハ流つらまといや飛動  
幻のごとく。ひさび年経らそをさぐまうと世を歴らうとありめ  
しり。雲城友と風を合とせり青とつて怪巖あり。撃つて倒せば風  
をひて忽ち颯る古昔禽獸拒は備をばらう時し。人を攫て本  
よ掛らうハ大勢もやありし。それが功満らうを壓て頂中戴るを條掛  
披せて護法よ役せられて後ハ人を傷はさむ悟ありと守せらうとと  
突もとろよ人もあるなう。い深きよハ蟒蛇捕ぬハ金をを厥よら。を境の靈  
ある神仙の宿りも花ハあやうそ。天武の袖振山ハ勝もれ上ハ襲ひ  
又回らうとてハ天瞻よのこえぬひ。日茲地望の岩穴ハ團ハ山よ列さ  
る。此よこそれ身の何れ流の雨ぞ。在五西河の幽豁ハ仙し。きり教良  
旭日乃邃窟ハ脱袴せりと。俱よ昔より俗侍ハ都藍本まを矯り。轉  
乘法華を勵まう。中院谷よ忠信ハ骨を教し掛後塔よ義經の名を

東山日記 續編 卷四

三









英中口口口口



英中口口口口













んむきやうれ曲ふも及ぶぬと日色と稱せし。そ記ハ京より前後一花  
 多し。こころあめれとばなるべし。そく皆併くあるゆとて折ふ  
 一し。かとうゆきく。正平は始足利直義。善て高師直が執務を畏れ  
 於よ在あがら密に南朝一内附せんと志し。剛邊が旧後醍醐成次。た  
 りりて中入まされし。南方の諸大将高師直。疑を抱く。左馬  
 政正。初中。某無て同候とら。近來字倉と執りとお和せと。鉾角を  
 くらひ。後日の後。思ひ今その時。所を信あつめ。密にわ  
 きを許して。底を試さぬとあるふらつて。降をせさせられ。怒り  
 ぶらつて。邸宅のゆは。なるぞ。まうれども。直義。うら。時。ま。か。解。へ。さ  
 ま。あ。つ。れ。バ。朝。の。ゆ。も。思。は。れ。始。終。よ。ん。成。記。剛。邊。二。郎。を  
 送。て。披。露。ハ。石。堂。兵。部。と。仮。名。して。ま。り。う。人。物。動。作。も。足。利。の。連  
 判。ハ。平。日。の。禮。者。よ。こ。そ。と。ん。中。あ。つ。る。實。ハ。明。れ。按。察。の。典。侍。を

あり。南。れ。方。と。大。塔。文。の。最。後。ま。で。伏。抱。侍。ロ。ヒ。一。人。あり。石。堂。と。云  
 ハ。直。義。の。清。り。ま。う。ぬ。と。さ。ぐ。う。ゆ。て。使。ち。肉。巻。して。武士。一。命。して  
 多。く。誅。罰。せ。ら。る。と。訴。へ。求。れ。れ。れ。腹。心。の。文。武。を。召。て。内。儀  
 せ。し。く。小。近。は。は。ゆ。ら。も。納。り。も。互。に。計。策。を。及。く。究。め。ら。る。不。た。ま。を  
 ハ。高。恨。を。爽。む。乃。時。よ。あ。ず。す。と。中。あ。つ。る。せ。の。ひ。て。は。由。定。さ。す。ら  
 ぬ。南。れ。方。た。あ。ら。バ。千。罪。を。殺。て。取。り。め。て。胸。を。居。ら。つ。と。と。頻。り  
 二。奏。せ。ら。る。え。う。り。は。傍。り。ハ。南。朝。の。一。人。より。徳。は。よ。う。う。て。折。は。觸。ま  
 席。に。臨。ん。て。言。ふ。糸。の。根。さ。す。一。節。さ。き。ハ。拳。戟。及。時。ハ。大。義。論。なり。  
 為。ハ。敵。を。斃。せ。せ。終。ひ。む。漢。代。の。末。つ。ろ。蜀。の。昭。烈。の。時。に  
 許。並。と。胡。潛。と。中。忍。く。公。事。ハ。恠。息。さ。ら。成。勳。ま。ま。ん。と。内。に。倡。優。は  
 命。じて。あ。ら。れ。行。儀。を。お。ひ。拵。う。め。諸。臣。大。命。れ。席。に。て。是。を。拵。優。せ  
 一。め。ら。る。き。え。う。も。あ。れ。ば。そ。ま。は。い。て。甚。と。和。さ。し。命。より。腹。心。の

英州市中續編卷四



河柳の俳伎を催さる。劇三場のまゝ廻りたる躑躅が城の劇。新  
 曲を作り添て。戯名旗標宴と稱す。伎ち正義を服の役。正義の態。月  
 ひ和歌。南の方と拵。いびき。まこれ。執奏せ。城智を以て。侍人  
 對待せ。い。城智心の外れる。なれば。公道背をたうと思ふ。是ハ新曲。乃  
 心を揮。又。いふ。いと。新邸。より。角と演。後。正義。を。是。こ。そ。大  
 事。あれ。と。信。丸。な。き。侍。も。て。かく。一。身。を。ま。せ。な。ら。う。い。色。も。改。ま。さ。う。く  
 一。こ。こ。り。ま。の。無。の。株。免。畏。れ。お。わ。ん。や。只。ま。を。ま。さ。れ。不。勤。は。衆  
 英の多。い。を。當。て。れ。れ。も。武。長。の。す。よ。あ。わ。ぬ。バ。初。の。あ。わ。ぬ。び。と。い。文  
 中。ける。標。の。新。色。こ。よ。役。合。空。う。れ。れ。ハ。剛。辺。ハ。旗。奴。を。拵。い。ひ。業。ハ。村  
 上。一。場。ハ。南。於。左。司。の。淨。三。ハ。名。和。長。氏。を。承。る。和。歌。ハ。舞。を。学。ぶ。る。宮  
 姫。民。家。の。女。子。等。二。十。八。人。を。用。て。散。き。ハ。香。の。衣。名。托。地。代。ハ。立。し。む。  
 舞。臺。ハ。故。條。塚。乃。女。子。伊。賀。の。局。檢。行。と。い。ふ。力。を。稟。つ。ぐ。武。器

あり。預め号令して。戯文。よ。遠。ふ。と。あ。く。ハ。旗。の。木。う。そ。一。百。打。ん。と。美  
 しく。容。を。や。う。た。る。流。野。ハ。足。や。う。ら。ハ。花。の。下。ハ。床。て。電。光。ハ。お。の。く  
 ん。地。を。人。衆。の。内。欄。を。ま。ぎ。も。端。殿。ハ。御。辺。の。内。簾。を。垂。て。君。の。内。様。お  
 紙。設。け。文。武。班。列。よ。拵。て。次第。と。絲。竹。金。鼓。ハ。幕。の。内。ハ。調。一。第。一。ハ  
 守。屋。指。城。軍。の。衣。摺。標。第。二。ハ。西。國。落。の。靜。舞。と。圍。已。ハ。涕。り。た。く。奏  
 して。躑躅。が。城。乃。旗。与。ハ。ま。や。ひ。あ。る。お。ふ。ま。ば。と。上。下。目。を。拭。て。待。り。得  
 こそ。な。れ

躑躅城旗典

あ。か。が。う。踏。る。後。な。子。月。れ。も。目。が。あ。る。さ。さ。あ。子。悦。ぶ。づ。一。君。ハ。山。路  
 二。所。つ。り。せ。も。なく。い。や。う。く。こ。も。扱。も。我。運。は。こ。ま。う。く。て。つ。ど。が  
 城。係。ち。か。く。き。ま。が。舞。を。ま。ね。る。が。師。傳。ハ。い。ま。ご。ま。あ。ら。る。り。え  
 いや。と。只。今。逃。つ。こ。な。う。て。ひ。皆。く。内。侍。ち。う。く。内。多。う。い。へ。乃。を。拵。く



る農家の中いはい前れたを芋瀬の庄司り塞ぎて落武者を破  
ふとく。君も己も修験道の立守りぬきい。心伏ふおいて不足な  
く別業ありまどくい。い。若くは款が君を取らぬ時。某一と  
なり。計畧とひく内跡よつきて救ひまらぐ。又義州故なく通  
しき。い。後き。う。も。某を。通。し。中。へ。く。と。な。い。い。義。照。ハ。け。不  
まためし。い。内。後。う。う。ま。ふ。む。む。う。ま。い。あ。ら。大。切。の。際。は。臨。ん。で。内。傍  
を。離。さ。な。ら。ず。ハ。何。を。う。ん。や。り。な。く。い。い。も。内。免。を。奪。る。べ。く。な。い。就  
ら。が。師。傳。程。を。く。ま。う。我。遅。し。む。づ。く。べ。皆。く。ま。う。い。く。暮。ん。や。や  
け。辺。の。奴。系。衆。も。も。何。程。の。す。れ。も。な。し。今。ハ。我。を。遅。延。し。ん。さ。う。バ。む  
う。い。ひ。べ。い。う。い。い。ぬ。う。や。綿。乃。内。旗。を。此。に。停。め。な。ら。い。大。元。下。乃。ぬ  
原。此。旗。を。も。ふ。え。づ。と。物。う。と。云。も。あ。く。ど。旗。竿。も。子。旗。格。を。バ。旗。奴  
ハ。旗。を。放。さ。い。と。す。ま。い。を。旗。も。ろ。と。い。い。ハ。是。け。傍。に。降。る。大。の

男残うい。扱て。回。み。又。許。扱。う。ち。や。り。内。旗。も。こ。う。う。肩。が。け。え。乃  
内。後。退。て。け。怪。力。勇。氣。ぞ。め。と。ま。う。と。武。畧。の。程。ぞ。め。と。ま。う。と。云。も。  
司。ハ。是。よ。肝。を。け。し。く。扱。陰。よ。う。を。う。出。て。背。を。見。や。り。め。が  
さ。さ。と。あ。れ。い。と。口。を。け。さ。ら。る。ま。い。に。さ。こと。い。う。て。よ。う。し。く。我。は  
損。益。を。一。彼。が。随。之。さ。き。う。一。や。も。老。も。い。遂。り。い。か。け。け。年。も。来。る  
年。も。云。司。ハ。い。と。舌。を。吐。き。返。し。と。義。勢。ハ。あ。う。う。り

同 扱宴

古也とい。る。邑の名ハ。君。某。を。と。つ。か。ざ。う。や。是。ハ。さ。つ。る。建  
武。二。年。邊。倉。の。古。宰。う。そ。直。義。を。殺。せ。し。め。り。大。塔。宮。に。結。符。せ  
り。又。と。り。女。う。て。い。最。子。あ。い。ま。う。つ。し。が。城。を。築。て。相。掎。入。り。大  
軍。を。交。ち。し。し。も。岩。菊。が。る。ん。は。落。さ。れ。て。村。上。義。照。内。名。を。獨。り。  
つ。し。此。れ。を。い。い。し。て。中。腹。切。ら。る。そ。辺。り。の。再。び。就。躰。れ。と。ま。る















意ありきれば。是れより恨めしき。上殿を怒りふと。常は独りこら  
れし。人間れ種な。ぬさへ。情むせづ。の財乃。変々日。の味方ハ  
明日乃。款とい。知あつ。君が。為は。掲げおほ。せず。生と。殺し。仏罪  
を守。ても。長等。の迹。い。ち。つ。ご。其。是。より。ハ。今。年。の。魂。れ。内。角。と。な  
す。さ。す。竹。の。大。文。人。ハ。花。よ。結。う。く。し。其。根。が。嶽。ハ。色。も。と。ま。さ。り  
う。ま。の。多。士。れ。ね。接。も。ら。ず。幾。来。文。ハ。此。其。の。お。け。が。乃。さ。や。ら。ご  
日。つ。と。れ。え。居。ら。る。

直義面。目。掩。て。群。收。せ。ハ。衆。人。宿。ま。懐。う。一。旦。は。散。り。て。去。り。も。直  
義。の。こ。ご。を。ご。扱。う。ご。り。し。を。称。義。す。理。り。う。ふ。直。義。際。う。ま。る。身。と。用  
ひ。し。て。且。ハ。小。お。へ。り。れ。す。く。お。よ。石。堂。と。仮。名。と。ら。ぬ。と。あ。ら。ふ。近。臣。花。光  
二。郎。之。属。淫。別。容貌。似。る。を。初。より。假。り。乃。形。代。と。して。その。身。ハ。右。良  
八。郎。と。て。末。の。者。と。な。り。あ。ら。る。こと。誠。何。と。も。思。は。ず。南。朝。人。な。し。と。公。よ

多。ひ。能。り。て。即。を。ち。り。わ。ら。正。行。ハ。諸。人。の。公。を。た。え。り。又。終。ハ。殿。邊。と。す  
し。く。彼。も。大。座。の。名。お。い。う。答。つ。と。傍。親。せ。う。舞。態。の。音。く。別。と。り  
小。市。人。よ。つ。わ。ご。う。ご。う。と。あ。は。紙。巻。と。共。よ。新。郎。よ。り。て。其。の。仮。名。せ  
し。石。堂。殿。ハ。面。せ。ん。と。P。よ。直。義。も。つ。ご。う。ぬ。名。の。う。出。て。對。面。と。初。て  
及。て。高。嶽。の。み。く。英。雄。の。斷。機。を。ま。ぬ。を。う。か。わ。そ。の。執。念。を。か。と。く  
も。あ。ま。な。り。し。ご。う。ご。う。ふ。代。の。糸。内。ハ。改。は。終。り。う。正。行。後。と。ご。軍。務  
れ。乃。よ。ま。う。ご。う。と。南。朝。の。高。制。を。詳。く。告。て。別。と。し。く。ご。と。を。庭。よ。下  
て。的。を。射。ら。直。義。も。人。教。持。ら。ハ。我。よ。ま。さ。ら。る。もの。さ。し。と。何。を。り。け  
て。云。日。月。を。愛。く。新。田。殿。行。よ。ハ。あ。く。と。も。我。よ。く。的。中。せ。バ。一。ご。び。ハ。友  
軍。ハ。帥。を。召。し。ん。正。行。云。小。長。徳。的。中。せ。バ。公。と。り。つ。く。と。奉。り。帥。た  
ら。んと。射。し。射。ら。と。志。む。く。あ。し。て。ご。に。中。を。り。て。退。く。物。も。は。隠。て  
公。の。今。ま。う。ハ。密。に。み。た。う。滞。留。あ。ら。う。と。云。直。義。我。收。び。て。私。の。後。よ。所



直ぐ強梁をかろて進退を可ふ。正行も公ハ北方よりかろて威勢を包も  
 て待り。近年は師直必ず教玉の軍を率てる城有るは向ふ。我我  
 して死生を決せん。まゝの領する西播の地ハ人勇。其肉もちり  
 一。是を加勝。出さぬ工夫しては朝の忠は修へり。師直死せずとも  
 軍。折負をハ勢持書へ。勝るはこれ家いよく安ら。彼を討ん版  
 此一族を討ては朝は後。ま。正行は代りて軍府を討り師直が  
 害を廻り。己が一族の送り。あ。この忠勲を祝ては指揮。迄  
 ふ。言の理ある。服しては。お。薙髪して。慧源と法号し。  
 小。師直が精ひを教。時。高。りて身を保つ。乃。始。南。は。後  
 言。此。出魂を慰。三年の。後。張。と。せり。初。後。和。死  
 乃。許。和。田。某。嫁。條。塚。乃。局。ハ。楠。正。儀。の。妻。と。な。り。と。ぞ。  
 時。高。階。の。執。り。威。持。於。鄙。赫。と。り。隨。は。り。の。夢。の。局。ハ。容。儀

ありて。妙。舞。あり。を。使。く。受。て。是。を。取。て。を。舞。へ。ん。と。て。日。は。回。者。を  
 南。朝。の。後。を。り。め。い。う。り。て。盗。と。出。し。ん。是。と。打。圍。之。搦。て。終。の  
 山路の間。乃。を。多。く。右。世。の。武。士。逐。ま。り。て。樂。を。遠。き。ハ。京。り。と。り  
 迎。ひ。の。兵。卒。教。場。て。改。は。斯。係。乃。及。む。ん。と。す。か。ら。ま。り。一。倍。も。出。さ。り  
 夢。の。局。樂。の。肉。り。綱。と。糸。出。り。紅。梅。の。小。袖。ハ。赤。袴。の。裾。を。曳  
 て。ち。の。目。も。ろ。ろ。め。く。さ。さ。岩。上。に。ま。り。ま。り。向。つ。て。我。を。抱。抱。と。り。と  
 不。怪。と。し。て。怪。を。知。ら。ず。此。人。ハ。わ。く。と。我。性。情。ハ。ま。り。と。し  
 あ。ハ。セ。テ。知。り。人。ハ。ま。り。赤。髪。を。披。く。ま。系。服。せ。る。彼。狂。ハ。所。れ。母。子  
 ろ。り。の。ハ。海。島。の。野。人。あり。磯。う。つ。波。の。音。芦。葉。そ。と。風。な。り。て。ハ。踏。り  
 不。づ。我。ハ。名。山。の。長。杖。ハ。毛。で。幽。境。乃。思。ま。を。慰。め。ん。が。あ。は。地。は。遊  
 息。す。何。ぞ。他。人。を。慰。め。ん。日。こ。そ。我。停。ら。限。り。ハ。兼。て。ん。え。と。我。方  
 此。人。と。ま。ま。の。ま。も。能。く。語。り。て。年。以。位。偶。の。思。を。附。し。ぬ。心。気



色を窺ふこと、蓬が山の遊ひ長く、世厨は己が穢せし、西酒ハ山宮の  
瘴氣を除く、寶善と傍と。安く下臨して人々を治む。  
世の世は、かくくも、世をせと、中々て、翡翠の玉、紅鶴の絲  
伐乱し、多く飛去て冥々と、やがて、あゝね、南兵ハ系家の間  
者を逐排ひて、取り取り、け中を逐し、笑く、是と、なん、吾世、得  
と、や、と、彼ハ、秀靈の救済なき、あゝ、

七 大高何某義を厲し影の石は賊を射る話

南朝ハ元中九年、北朝ハ明徳三年の冬、南ハ和義、個て、そ、り、又、十六年  
一統す。然も、も、小朝の玉も、君は、治す、多、り、あ、り、ま、あ、り、て、南  
方ハ、高家、遠、恨、散、せず、然、堂、時、一、起、り、一、統、の、後、又、十、三、年、小、朝、乃、文  
安、元、年、小、朝、乃、皇、流、を、奪、り、て、増、記、し、西、南、の、玉、乃、号、令、と、り  
一、と、已、七、年、法、方、の、武、士、来、り、地、り、の、日、又、加、り、て、勢、ひ、代、り、と、え、り、れ、ハ

を、屬、國、れ、貢、物、水、乃、浮、陸、乃、概、ど、て、あ、り、ま、り、伊、勢、の、後、兼、政、ハ、多  
氣、勢、も、て、多、有、の、と、え、あ、り、し、ハ、先、朝、乃、め、き、ま、て、世、危、り、り、ま、さ、と  
世、り、り、そ、子、兼、次、系、向、一、先、朝、乃、傍、垂、れ、り、米、涉、幾、む、城、上  
納、し、御、す、ハ、の、り、り、り、ハ、用、乃、充、て、後、乃、裁、ら、も、り、さ、れ、ハ、一、と、り  
小、一、朝、派、ハ、一、く、先、例、乃、依、て、集、人、佐、と、り、さ、れ、り、保、昌、乃、所、乃、家、乃  
ま、り、ハ、一、朝、乃、赤、り、の、義、振、義、勝、を、鉄、し、ま、り、そ、法、法、先、代、乃、持、け、  
る、例、乃、ま、り、づ、ひ、て、進、む、程、乃、味、方、の、法、士、乃、い、さ、り、り、く、ぞ、ま、  
え、り、り、南、朝、柱、石、の、後、乃、楠、正、勝、ハ、合、終、の、時、又、正、儀、乃、別、立、し、矛  
正、元、ハ、京、乃、今、乃、仇、を、刺、ん、と、て、遠、む、忠、死、す、そ、後、ハ、十、津、川、乃、入、て  
已、乃、四、十、餘、年、け、時、乃、及、て、老、を、極、む、と、い、ふ、也、然、烈、を、失、ハ、十、帝、居、乃  
系、向、し、て、老、と、共、乃、無、復、を、計、る、又、大、工、乃、了、り、位、乃、國、規、と、て、近、材、の  
上、乃、あ、る、が、皇、宮、の、傍、乃、を、畧、し、移、ん、と、て、ま、り、り、れ、也、そ、り、り、ハ、あ、り、











聴居るるは肝鬚と色を交りてさくさく面を低し。さうと公を張  
 て何事とあき推して。備勝を用う。今更の上は策ハ何と  
 向ふ。正勝云。上の策も言か。中色もいづく。強くつんと希ふ。  
 正勝云。是もいづく。耳は入る。いづく。今紀勢河原の  
 向ふは朝へ内志残属する大敵。二之なり。此皆換積の力を使ふ。和殿  
 有人乃進退を思ふ。水方は流言せ。め。ま。ま。も。も。禍ひ。及べ。一。  
 その時罪を免る。兼ての方便ありや。た。あ。く。い。急。よ。こ。ひ。支。あ。ま。か。し。  
 有人倍長と。り。さ。ら。せ。ど。赤。松。一。族。の。末。あ。る。べ。し。急。は。播。州。は。行。き。  
 赤松満則は。後。し。て。彼。を。味。方。と。な。り。し。く。近。山。名。奔。向。し。て。満。則。を  
 攻。つ。ま。し。我。は。告。げ。せ。り。は。時。我。山。名。は。後。て。攻。つ。作。り。て。満。則。と。公  
 を。合。せ。戦。を。返。し。て。赤。松。を。攻。め。己。は。河。内。の。畠。山。を。か。し。し。治  
 小栗栖は。出。て。ま。さ。め。め。赤。松。乃。里。見。原。田。は。約。集。し。同。時。は。旗。本。と

せて。鼓角の勢を張る。公ハ。八幡。は。皇。居。亦。然。と。し。満。祐。の。血。脈。改。則  
 の。家。を。起。す。ハ。は。時。な。る。べ。し。と。公。配。の。速。な。る。と。取。上。り。丸。を。走。す  
 が。め。さ。れ。計。策。は。同。時。に。答。出。り。し。く。正。勝。又。云。是。ハ。日。我。空。し。く。送。り  
 ぬ。上。策。な。る。べ。し。播。州。は。後。事。難。義。な。る。べ。し。た。あ。ハ。狐。は。化。を。教。へ  
 る。よ。似。し。れ。ど。水。方。へ。便。り。を。求。め。て。は。土。地。の。構。つ。る。ま。を。残。あ。り。く。よ  
 固。し。て。お。ろ。り。好。時。節。を。い。て。告。知。す。べ。し。と。表。裏。よ。り。て。なり。て。身。を  
 全。す。り。し。る。是。上。策。な。る。べ。し。中。色。部。を。封。じ。て。後。の。解。説。あ。ら。ば。と  
 探。し。ま。り。る。言。を。公。と。い。け。し。て。感。依。の。終。り。明。断。の。ま。り。水。邊。に。岩  
 人。も。も。覚。悟。を。せ。し。と。公。稱。万。計。し。て。退。き。出。づ。正。勝。公。を。副。て。彼。二  
 人。を。外。す。の。勅。役。は。配。り。用。ひ。内。子。は。用。む。二人。も。新。兵。を。せ。ば。斯。あ  
 る。べ。し。事。と。し。つ。り。向。ふ。は。公。之。命。を。請。林。忠。の。供。出。し。つ。と。て。幸。を。正。勝。に  
 計。り。つ。し。事。の。序。は。公。の。い。は。る。る。ハ。笠。置。の。所。没。落。れ。時。より。武。家。清。を。







る神皇狩り。是より心を志す。とて。誰う下さまの正一。中つこと。中。  
正勝云。是ハ武家の謀むこと。あらず。君の御身。はほひり。徳あまは  
て。皆身命をなすにあり。神皇の志。まよふ。此朝の百。す。是。是。は  
れ。量。城。控。り。知。ん。と。する。京。家。の。人。よ。こ。そ。秘。ま。ご。れ。味。方。も。誓。約  
の。人。よ。非。ざ。れ。ハ。告。ず。志。り。あ。り。國。の。富。有。を。知。ま。ば。戦。あ。る。あ。り  
と。長。府。よ。い。ま。ふ。い。一。ツ。の。若。と。取。出。し。志。を。が。う。是。を。神。皇。と。も。中。さ。バ  
日。く。ひ。ふ。ま。で。も。軍。家。の。之。言。と。する。地。人。有。の。地。ハ。は。朝。乃。播。不。し。そ  
天。能。乃。乘。害。大。朝。の。權。ハ。非。ざ。と。い。も。人。の。知。る。人。ハ。伊。勢。の。國。司  
先。代。の。高。家。海。を。降。る。回。玉。皆。高。民。なる。劫。中。無。良。ハ。河。内。の。土。地  
よ。あ。る。家。の。子。あり。皆。墳。墓。を。枕。と。する。の。志。あり。有。ハ。位。は。第。あり  
と。飛。索。よ。命。し。て。論。を。執。て。開。り。し。め。此。飛。守。磯。致。兼。政。が。一。紙。千  
貫。の。證。文。一。紙。千。俵。れ。券。子。教。ね。お。よ。充。と。り。け。之。言。傳。す。す。ハ。良

亮。が。才。あり。ても。戦。ふ。と。あ。く。は。す。殺。免。常。よ。三。窟。の。計。を。ぬ。し。乘。人。懐。て  
兩。頭。船。を。踏。と。れ。諺。あ。ま。ど。あ。次。船。を。踏。と。ハ。人。は。れ。好。む。不。あ。り。次  
と。と。と。同。時。も。時。の。厚。さ。よ。難。と。と。四。世。の。將。材。之。一。切。す。と。称。歎  
す。秋。は。ま。ま。あ。り。け。所。の。地。記。も。ふ。く。十。六。年。よ。及。び。時。は。南。朝。乃  
元。中。元。年。より。六。十。九。年。正。月。二。十。九。日。日。輪。東。よ。空。り。て。二。形。並。び。り。勢  
ト。し。て。一。形。ハ。漸。く。消。失。て。一。輪。と。ある。正。勝。壽。乃。る。う。ふ。と。ん。と。あ  
て。天。を。仰。て。告。歎。を。り。教。養。已。ぬ。ら。う。ふ。已。ぬ。ら。う。れ。と。志。す。一。言。を  
ふ。く。此。終。り。り。傳。は。尾。輪。考。海。邊。よ。生。立。る。ら。が。等。て。中。や。う。是。を。我。邊  
よ。て。八。日。は。と。名。づ。け。陰。多。う。ん。と。し。て。ハ。き。茶。つ。く。と。同。又。ゆ。り。と  
あり。何。ぞ。大。將。の。憂。ぬ。し。と。あ。ん。正。勝。何。れ。も。ふ。く。退。き。て。腹。心。乃  
一。族。よ。傳。々。ら。ハ。九。月。月。の。徳。ハ。古。今。一。ツ。なり。只。今。時。の。地。氣。れ。そ。ふ。ふ。よ  
こ。今。屋。を。是。よ。す。彼。海。邊。ハ。も。あ。ら。ハ。あ。れ。我。ハ。山。中。よ。是。を。入。る。時。ハ

○長州の事 續編 六四 三十一



帝土の眞廢よからつさう日輪一ツうて田をを徳く。我の取あり。  
今あれ日のまひ出るや。そ一映して傍らるあり。傍らるりの邊は  
漸して一よなすら。是教於表へて善於さらんら。皇運の教ずべ  
と不たうと深く憂へられども。味方れ軍威殊増けきばさひさする  
るよあわれぬ。軍務よ務ましく打さぬをそのは。正勝久しく小畠殿よ  
後くこれ彼よは音信て時の要待して返るついで。河端の正盛り  
宅よいつてそ青ははよ敬言とぐ一と。腹巻とそそ足と伸しける。和  
盛よ瑞よ出て。御家を賣よ。いふる猶よ弓引の矢矢低きと。穀  
を失ふめし。いふらうて是必ず城堂を修るをゆる。或ハ大切の仇を脱  
とさしむらうと。急よ正盛よ告てんせし。正盛んらよいさう常よ  
りいさ。け星のぬきひ遠よまうよんく。色さるが自給の天及  
あり。翁の目こそ迷ひこれと。正勝改を撰て。今此辺に守屋乃身。

朝儀は興す。南朝の天文星よ入る。我國よのそ迷ひ見ありは  
南く海切なる所のわづら。次子善れ光さへんらうありふ。近江  
鳥合の右軍新系のお事ありまばんゆりかし。うに安逸して明  
目を納ハ。其職よ怠ることありと。是時よ弁是し。微躬のほ老無人か  
まばん教を授けりくと。國司の方一人を以て告中。是は十餘人使  
道とれて。東川よ向て馬を馳らう。寔は同中色ハ。林を奪ひて南  
帝と失はん。と隙をうらう。正勝兼てんえて。近侍よ内属しぬ。並  
む。其後宣をばす。南帝兼て。このお家は。潜幸ありと。ことおわきと。  
正勝よ悔うてた。さひあま。と之し。け時彼が家より。さる。残んて。下  
格子乃後。龍口ま。そ。名のつて。返り遊ひ。うら。み。位。能く。等よ  
駕を命せられ。戎服。百。され。女。う。一。脚。して。底。を。穿。せ。ぬ。み。から。御  
よ。神。之。在。す。此。殿。の。方。より。中。色。乃。出。ま。る。此。翁。を。家。人。は。負。せ。や



南帝怪し同せぬ時。友人連乃下まわつて。めらハ曉天ノ小敵  
 襲ひをらん踏探を。只今ほと北より告知せぬよう先鋒をかく  
 してこそ。お望を迂しなると。誅しげと奏されぬ。此後改よ  
 からはおかけきハ幸よ内應をりうせぬ。友人劍をうり供存乃樂  
 丁を退ちし。南帝の命を捧さ。た右より去て二三里をり。切時  
 南皇我ハ囚と。いなりじ。そに命を傳ふと宣ひて。せめて勅りせ給  
 ます。今ハそ中邑勿辨さるも弑しなり。まう。此は衣甲胃とささる。哀  
 さうふ。南胤の南小あらや。うらやとせ給ふ。小朝乃長孫元年ハ時  
 十二月二日なる。連丁が叫びよびくる。小武士多く出て追来る。友人をや  
 らと取らむと。のがあつて。今ハ身もつらき。れ。氣の石を後干よ  
 とうて。大さ。ま。我らハ小朝の命ありて。南帝を退治して。帰  
 るか。う。後日乃罪を知ずやと。夢て。東家の人。れ。す。不。高。ま。こ

ようせぬいて。めらハ。の。答。あ。と。人。皆。後。日。を。願。ふ。そ。時。大。高  
 卿。又。命。ある。の。ん。到。り。義。信。あり。そ。日。お。起。て。田。を。え。ん。は。人。と。と  
 る。而。よ。人。殺。し。年。と。叫。ぶ。お。再。よ。り。ま。う。ま。た。な。と。ま。ま。と  
 ひ。ま。る。東。なる。大。石。の。お。よ。ま。人。あり。只。今。ま。人。を。殺。せ。て。体。て。龍。衣  
 内。甲。を。穿。よ。ま。る。南。帝。を。打。な。り。遠。か。し。と。衆。を。麾。さ。て。ま。ま。と  
 た。か。し。作。ら。め。ら。ハ。明日。の。義。あり。今日。ハ。今日。の。義。あり。暇。れ。あ。ら。う。思。つ  
 ぬ。思。ん。や。と。引。志。ち。り。て。一。人。を。射。る。胸。を。ぬ。し。て。一。箭。よ。斃。つ。ら。ち。是  
 中。邑。なる。る。勢。勢。ひ。う。ら。う。さ。ら。ん。て。ま。う。此。衣。甲。も。打。ま。て。る。身  
 あり。て。の。れ。ま。る。矢。比。遠。ざ。う。ま。ハ。教。を。あ。り。し。人。を。お。め。大。高。丘。の  
 ぼ。り。て。ま。東。嶽。系。の。先。う。一。隊。れ。ま。る。人。ハ。我。方。武。家。の。標。あり。必。定  
 こ。そ。今。の。一。人。よ。り。ま。ま。と。此。よ。屯。して。か。ら。時。ハ。往。來。を。い。ま。し  
 め。用。を。せ。よ。と。勅。り。す。正。勝。ハ。熟。路。を。倍。して。狭。谷。の。北。よ。り。時。日。ハ



子ちく昇のりきり。向むかひたう肌具はだぐ足あしせむ男一人あり。心勝こころがが一隊いちたいを足  
 て。横よこたは遊あそべんとするを。下げ知ちして投なげさせり。よ。おはざる。る。侍さむらいの  
 たり。果はして你野あなた心を託たくし。遊あそぶ。水みづは濁にごる。反はん賊ぞくを停とどめて。益えきはし。し。  
 然しか鞭むちを抽ひて。ま。く。う。ふ。そ。持もて。撲うつ。殺ころして。う。を。回くわい者じやの。互あひ。あ。  
 す。なり。石いし崎さき強つよく。あ。ま。て。血ちを。吐そか。が。う。南なん島じま逃のがれて。水みづより。う。心勝こころが  
 己おのれは。換か谷やより。う。新あらた主しゆの。愛あいを。見みて。大おほい。悲かなし。し。大高おほたかう。我われ男おとこ  
 を。称なづす。る。衣い甲かは。を。下くだす。あ。めて。械くわいを。お。の。後のち記しと。な。さ。し。め。  
 礼れいを。以もて。神野かみのの谷やの。陵りやうに。葬まうり。帝てい后こうに。記しし。佛ぶつ院いん王わう住ぢゆう山さんに。移うつして。香かう  
 火かを。奉ほうぜ。し。め。我われ身みは。再またび。十じゅう津しん川がわの。奥おくに。隠かくれて。遊あそぶ。老おいを。告つぐ。南なん北きた  
 一いち統とら。う。け。時ときは。五ごつ。て。六ろく十七じち年ねん。を。同どう明めい滅めつあ。れ。し。も。於おの。後のち勇ゆう後ごと。と  
 あり。諸しよ葛かく忠ちゆう武ぶ侯こう亮りやうと。蜀しやく於お治ち安あん二十九じゅうにゅう年ねんの。久ひさき。よ。う。う。其その高たか武ぶ  
 侯こうの。德とくを。知しる。南なん方ほうを。志しむ。の。保たもた。久ひさし。い。う。か。石いし見みか。立た功こうの。操さくを。以もて。兼かね



て。苦く難なんを用もちする。大高おほたかの時ときは。悠ゆうんで。義ぎに。進すすむ。る。を。成せい功こうを。論ろんじ。れ。  
 ば。日ひし。只ただ是こゝろ遇ぐと。不ふ遇ぐと。深ふかく。あ。る。を。深ふかく。い。葉はの。よ。あ。る。は。し。

古今奇談秀句冊第四巻終



